

保健体育科学習指導案

学校名 海田町立海田西中学校
授業者 山本道隆

- 1 日時 平成28年9月29日(木) 第5校時
- 2 学年 第1学年男子 28名
- 3 単元名 体育分野 球技 ゴール型 「バスケットボール」
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領の【E球技】ア ゴール型に関する単元である。

「ゴール型」に分類されるバスケットボールは、コート内で、5人ずつの選手が互いの行動や動作を制御しながら一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合う集団的スポーツである。攻守が頻繁に入れ替わり、一瞬の動きの差がゲームの流れに大きく影響する。攻防が入り乱れるため、自チームや相手チームの特徴、力を踏まえた作戦の立て方や、作戦に応じた個人的技能の効果的な発揮が、ゲームの勝敗を分けることになる。それ故、状況に応じたシュート、パス、ドリブルといった基本的技能の習得は、ボール保持者になった際には、ゲーム全体をコントロールする唯一の主体者となり得るため十分にその楽しさを味わうことができる。そして、その連続の結果生まれたシュートの成功は個人にとって、チームにとって充足感の高いものとなる。さらに、体力向上面からも走・跳・投という運動が連続して行われるなどオールラウンドの身体能力が要求されるため、その練習過程を含め、十分な運動効果が期待される単元といえる。

(2) 生徒観

1学期の実技では、体づくり運動、ダンス、陸上競技、水泳を行ってきている。球技は、中学校で初めての単元となる。授業では、全体的に教師の指示を素直に聞き、教え合いもその方法を理解しながら積極的に行っていこうとする生徒が増えつつある。

運動部へは25人(89%)が所属している。バスケットボール部に所属している生徒はいない。

新体力テストの質問紙では、1日の運動・スポーツ実施時間を1時間以上と回答する生徒が22人(79%)おり、運動・スポーツへの参加・関心は全体的に高い。但し、30分未満と回答した文化部に所属している2人の生徒は、その理由を運動が好きではないと回答している。テスト項目平均値からみると、握力を除いて他の項目は、全国、県平均値を超えている。本校の年次推移からするとハンドボール投の平均値がこの3年間の中では一番低く、10人(36%)の生徒が全国、県平均を下回る結果となっている。

(3) 指導観

バスケットボールでは、オフェンスを重視し、「ボール操作」や「ボールを持たない時の動き」といったオフェンスの基本的な技能を身につけさせ、その技能を活用して試合ができるように展開したい。そのためには、チームとしての課題解決に向けて生徒が創意工夫し試せる場面を、主にチーム毎の練習場面に設定する。正規のルールで行う場合、作戦の立て方も多様で、作戦通りにならないことも多いと予想されるため、1学年では3対3までのディフェンスリバウンドからの速攻を想定して練習させる。チーム内での約束事や規則性を有する独自の戦術を試させ、結果を受けて他チームとの意見交流を図る中で、よりよい動き、連携した動きを確認、あるいは再度導き出し、正規のゲームに応用できるようにさせたい。「ボール操作」に関しては、タブレット装置を活用し、よい動きを見て真似る。そして、自分の動きを映像で確認し修正していくという活動を通して、意欲付けしながら練習に取り組ませたい。また、「ボールを持たない時の動き」については、兄弟チームを編成した中で、意見交換しながら助言等を行わせ、仲間と一緒によりよい動き方を見つけ出させたいと考える。特に「空間の見つけ方」「空間の作り方」を追究することがチームとしての課題解決に向け重要であることに気付かせ、この単元が「ゴール型」全般のボールゲームに応用されていくよう指導したい。

5 単元の見目標

- バスケットボールの特性に触れ、カ一杯挑戦して楽しさを味わうことができる。【関心・意欲・態度】
- バスケットボールの基本的用語、ルールや行い方を理解し、チームの課題や自分の課題のために、練習内容や練習方法を工夫しながら課題解決を図ることができる。【知識・理解、思考・判断】
- 基本的技能を高めることができる。(状況に応じたシュート、パス、ドリブル、ストップなど) 【技能】

6 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
練習やゲームに全力をあげて取り組むことにより、楽しさや喜びを味わおうとしている。互いに協力し、励まし合いながら練習を行おうとしている。ルールを守り、審判の判定に従おうとしている。	ボール操作の技術を高めるための運動の行い方のポイントを身につけている。学習したことをもとに、チームや自分の課題を解決するための作戦を工夫している。	状況に応じてシュート、パスやドリブルの動きを身につけている。空いた空間を見つけ移動することにより、攻撃参加する技能を身につけている。	バスケットボールの戦術を用いて攻防を楽しむ特性があることについて理解している。基本的用語、ルールや行い方を理解している。

7 本単元において育成しようとする資質・能力

- 【知識】 バスケットボールにおける歴史・用語・ルールに関する知識
- 【スキル】 チームとしての課題解決に向けて、既習の知識や体験を活用して考えていく解決力
- 【意欲・態度】 チームとしての課題解決に向け作戦を具体的に試行していこうとするチャレンジ精神
既習の知識や体験を活用しながら新たな戦略を見いだそうとする主体性
- 【価値観・倫理観】 基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、課題解決することによる自らへの自信
他者の意見を聞き、受け入れる共感力

8 指導計画(全9時間)

次	時	学習内容	評 価				評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
			関心	思考	技能	知識		
一	1	課題の設定 情報収集 ・バスケットボールの特性・練習方法等を知り、学習課題を明確にする。映像を手がかりに身につけたい力を知る。	○				バスケットボールは、戦術を用いて攻防を楽しむ特性のあることを理解しようとしている。 (学習ノート) 全力をあげてスキルテストに取り組むことにより楽しさや喜びを味わうとともに現状のスキルを知ろうとしている。(観察・スキルテスト)	バスケットボールの歴史等に関する知識 (学習ノート)
	2	ハーフコートの動きの中でキャッチ・ショット・パス・ドリブルの基本的技能を身につける。2対1まで	○				正確な「ボール操作」を身につけようと繰り返し練習している。 (観察)	
	3	オールコートの動きの中でショット・パス・ドリブルの基本的技能を身につける。 3対1まで			○		身につけた「ボール操作」を3人で状況に応じて活用しようとしている。(観察)	他者の意見を聞き、受け入れる共感力 (観察)

二	4	整理・分析 ・チームとしての課題を明確にした攻撃練習で、状況に応じた作戦を練り自分たちの作戦を作り上げる。 3対1⇒3対1+1での速攻				○	「ボールを持った時の動き、持たない時の動き」を予測し、試行しながら3人でショットに繋げようとしている。(観察・学習ノート)	
	5	【本時】 ・チームとしての課題を明確にした攻撃練習で、状況に応じた作戦を練り自分たちの作戦を作り上げる。3対2⇒3対2+1での速攻				○	人数的優位性を利用して、3人が適切なポジションへ移動することにより、速攻を完成しようとしている。 (観察・学習ノート)	既習の知識や体験を活用しながら新たな戦略を見いだそうとする主体性(観察)
	6	・チームとしての課題を明確にした攻撃練習で、状況に応じた作戦を練り自分たちの作戦を作り上げる。 3対2+1⇒3対3の速攻				○	マークを外し、人数的優位を作って、速攻を完成させようとしている。 (観察・学習ノート)	チームとしての課題解決に向けて、既習の知識や体験を活用して考えていく解決力(学習ノート)
三	7	・3対3で身につけた動きのポイント、チームとしての課題解決方法を活用し、正規の5対5のゲームを行う。 攻守の切り替えとポジションの役割理解				○	5人での基本的なポジションと役割を理解し、自チームや相手チームの戦力を分析しながら作戦を立てようとしている。 (観察・学習ノート)	チームとしての課題解決に向け作戦を具体的に試行していこうとするチャレンジ精神 (観察)
	8	まとめ・創造・表現 ・正規の5対5のゲームを行う。				○	ルールに則り、5人の連携により速攻を完成させ、楽しさや喜びを味わうことができる。 (観察・学習ノート)	基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、課題解決することによる自らへの自信(観察)
	9	ふりかえり ・スキルテストを行う。				○	全力をあげてスキルテストに取り組むことにより楽しさや喜びを味わうとともに現状のスキルを知ろうとしている。(観察・スキルテスト)	

9 本時の学習

(1) 本時の目標

3対2の人数的優位の状況で、ディフェンスリバウンドからの速攻により、ショットまで攻撃を組み立てることができる。

(2) 観点別評価規準

◎運動の思考・判断

前時までの作戦を考慮に入れ、チームの課題を解決するための状況に応じた戦略を立てている。

(3) 準備物 ・バスケットボール ・デジタルタイマー ・ゲームベスト ・作戦ボード

(4) 学習の展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (・) ◆配慮を要する生徒への支援	評 価 規 準 教科の指導事項 (○) 資質・能力 (★) (評価方法)
導 入	1 本時のねらいを確認する	<ul style="list-style-type: none"> 十分ウォームアップさせる。(指のストレッチ等確認) 本時の学習課題を提示し、攻撃の条件を限定する中で、その瞬間よりよい動きを見つけていくことが本時の目標達成に繋がることを説明する。 	
展 開	<p>2 個人技術習得練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェストパス&ワンハンド スナップパス他 (対人ドッジ) ・パス⇒ピボットフット⇒パス ・バウンズパス⇒キャッチ⇒ジャンプストップ・ストライドストップ ・ミドルショット 【対人】 ・ゴール下セットショット→1ステップショット→ドリブル1回2ステップショット→アドバンスドリブルからレイアップショット 【個人】 <p>3 ディフェンスリバウンドからの3対2</p> <p>【チーム】</p> <p>4 ディフェンスリバウンドからの3対2+1</p> <p>【チーム】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識した素早い(走って)行動を求める。 ・正確なキャッチ(指を立てた状態)とキャッチボイスを行わせる。 ・ストップ(ストライドストップ)は、一歩目がブレーキで、2歩目がバランスの調節となることを確認する。 ・ショットは、シューティングテーブルを構えることを確認する。 ◆巡回指導の中で、示範を交えながら、ポイントを再度確認していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・チーム内の兄弟チームを使って3対2を行わせる。 ・ボール保持者(リバウンダー)には、即ディフェンスがつくという条件で3対2を行わせる。 ・1回毎にポジションチェンジして試させる。 ① リバウンド→判断・ドリブル→自分と味方の動き ② リバウンド→判断・パス→自分と味方の動き ・いつ、どこへ、どのように動くかを1回毎作戦板で意見交換させながら、作戦を立てさせる。 ◆パス、ドリブルを不得意とする者には、チームとしての動きで、今できる技能を最大限活用していくよう支援する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボール保持者には、即ディフェンスがつくという条件で3対2+1を行わせる。 ・1回毎にポジションチェンジして試させる。 ・ボールがセンターラインを越えたら、ディフェンスが1人増えることとする。 ①リバウンド→判断 ドリブル→自分と味方の動き ②リバウンド→判断 パス →自分と味方の動き 	<p>○キャッチ、ストップ、パス、ドリブル、ショット</p> <p>○ボールを持った時の動き、ボールを持たない時の動き(マークの外し方) (観察・ノート)</p> <p>★チームとしての課題解決に向けて、既習の知識や体験を活用して考えていく解決力(学習ノート)</p>

3対2からの状況で、ディフェンスリバウンドからの速攻により、ショットまでの攻撃を組み立てることができる。

<p>5 作戦について,全体で意見交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ, どこへ, どのように動くかを1回毎作戦板で意見交換させながら, 作戦を立てさせる。 ・自チームの作戦を全体で交流する。 ・5対5に通じる戦略であったかを意識させ, 確認する。 	
<p>6 本時のまとめをし, 次時の学習について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持った時, 持たない時のよりよい動きについて発見したことを自分の言葉で学習ノートに表現させる。 ・次時は3対3で人数的優位性がなく, いかにかそれぞれがマークを外してショットを成功させるかを課題とすることを伝える。 	

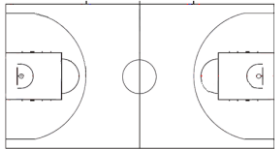
めざす生徒像
3対2の状況では, ゴール前で2対1, 3対1の局面を作り, マークのいない味方のショットに結びつけることが有効であることを理解した。

(5) 板書計画

本時の
目標

3対2の状況で, ディフェンスリバウンドからの速攻により, ショットまでの攻撃を組み立てることができる。

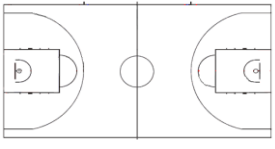
ディフェンスリバウンドからの3対2



条件2

- ①リバウンド→判断1・ドリブル
- ②リバウンド→判断1・パス

条件1 ボール保持者 (リバウンダー)には, 即ディフェンスがつく



条件2

- ①リバウンド→判断1・ドリブル
- ②リバウンド→判断1・パス

本時のまとめ 3対2からの状況について
ゴール前では, 2対1, 3対1を作り, マークのついていない味方にショットさせることが有効である。